

## 1. カンサイタンポポ（キク科タンポポ属）

### *Taraxacum japonicum* Koidz.

2014年4月

道ばたや土手などに生育する多年草で、近畿地方以西に分布します。身近な植物として親しまれていますが、街中でみられるタンポポはほとんどがよく似た外来種のセイヨウタンポポ（*Taraxacum officinale* Weber）です。カンサイタンポポは郊外の土手など外来植物の進入が少ない環境に多く、また、セイヨウタンポポはコンクリートの隙間でも生育できる極強健種で、両種の分布を調べれば自然度が分かります。両種は生殖様式も異なり、単為生殖が可能なセイヨウタンポポは繁殖能力に優れ、両性生殖であるカンサイタンポポを駆逐する勢いで分布を広げました。民家周囲で両種が混生するところは中間的な形態を持った雑種が形成されます。両種の大きな違いは外側の総苞が反るか反らないかで、反るのがセイヨウタンポポです。セイヨウタンポポは明治初期に現在の北海道大学が当時食用のため導入したとされています。セイヨウタンポポは侵略的外来種ワースト 100 に選定されています。市内には在来種で白花のシロバナタンポポ（*Taraxacum albidum* Dahlst.）が生育しています。近年減少している種ですが街中の街路樹の根元や石垣などに開花しているのが確認できます。ほかには在来のクシバタンポポ（*Taraxacum pectinatum* Kitam.）と思しき個体も見られます。本種は花粉の大きさがバラバラで倍数性を示す多倍体種です。

利用は葉をサラダにするほか、根は乾燥させて炒ったものがタンポポコーヒーとして健康志向で愛飲されています。食欲増進や肝機能向上に効果があるそうです。



カンサイタンポポ



クシバタンポポと思しき個体



セイヨウタンポポ



シロバナタンポポ